

# PSC 2015年度 事業報告

事業期間 2015年4月1日～2016年3月31日

---



## CONTENTS

### CONTENTS

2015年度の活動総括	1
事業一覧	2
2015年度 PSC事業報告他	
■ センターの主な事業	3
■ センターの運営に関する活動	15
■ PSC役員一覧	16
■ PSCデータ	16
2015年度 資料編	17

## 2015 年度 活動総括～2015 年度事業を振り返って

2015 年度、全国的にも NPO 中間支援の厳しい組織運営が迫られている中、パートナーシップ・サポートセンター（PSC）も依然組織運営は厳しい状況にあり、体制立て直しのために事務局長募集を実施したものの、実質的な新しい組織体制の確立には至らなかった。

PSC の主幹事業である「日本パートナーシップ大賞」の継続について第 11 回を共催した認定特定非営利活動法人日本 NPO センターとの折衝のなかで、意義を高く評価しつつも自団体の課題優先から継続共催の可能性は現在までのところ見えてきていない。したがって、新たな協働の可能性を模索し始めたところである。

また、日本パートナーシップ大賞を支える事業として 2006 年度から公益財団法人中部圏社会経済研究所と協働で開催してきた「企業&NPO 協働アイデアコンテスト」が、2015 年度第 10 回という区切りとなり、2016 年以降の展望として「中部まちづくりパートナーシップ大賞」という新たな展開に着手した。

一部自治体で実施している協働コーディネーター養成（まちづくり人養成）も 2 周目となり定着しつつあるが、他自治体への波及までには至っていない。また、CSR を中心としたコンサルティング事業のひとつとして新・CSR 検定（株式会社オルタナ、公益財団法人日本財団主催）の名古屋会場を担当しているが、これを活かした CSR 推進事業の展開までには至らなかった。

以上、2015 年度は組織運営の打開策が見えないままの事業展開となり、次年度開催が決定した「中部まちづくりパートナーシップ大賞」以外の新しい事業など成果をあげるまでには至らなかった。以下、年度当初の方針に沿って振り返る。

### 1. 基幹事業の「次のステージ」への検討

- ①日本パートナーシップ大賞継続に向けての準備については、第 11 回を共催した日本 NPO センターの意向もあり、2015 年度は体制を再構築することとなった。体制を見直し、現在株式会社博展が実施するサステイナブル・ブランド国際会議での実施を模索中。新たな方向を見出そうとしている。
- ②協働アイデアコンテスト第 10 回とその後の展望については、惜しまれつつも第 10 回を無事終了。岐阜、静岡、三重など各地域において、本事業の展開の可能性が広がっている。また、次年度からはアイデアづくりから一步進めた「中部まちづくりパートナーシップ大賞」として、協働事業を支援する事業に生まれ変わる事となった。

### 2. パートナーシップ大賞を活かした自主事業の展開

- ①CSR コンサルティングの本格的実用・拡大については、新事務局長による営業力への期待も大であったが、その責に就くまでは至らず静岡在住のままであったこともあり、静岡県内での CSR 推進に留まった。
- ②協働コーディネーター養成については、安城市の「まちづくり人養成講座」が 3 年目となり、2 周目の初級編が開催され継続しているものの、他自治体への拡充までには至らなかった。

### 3. PSC の新しい事業づくりについては、①NPO の協働事業開発支援としては、アイデアコンテストの受賞団体への支援を始めてはいるが、事業としての成立までには至らず、②「CSR リーダー会」の立ち上げについては、1 回開催したが、メンバーとともに今後の継続をはかりたい。

### 4. 組織体制の強化は、最も大きな課題でもあったが、依然事務局に責任を担っていく人材が不足しており、スタッフのスキルアップや他団体・中間支援団体とのネットワーク強化ということでは解決しないのが現状である。

# ■ 2015年度 事業一覧

\*事業形態:自主事業は「自」、委託事業は「委」、協働事業は「協」と記載

(カテゴリ別)	(事業名)	掲載ページ	事業形態(※)	(年号は開始年度)	中期ビジョン5つの事業戦略				
					NPOと企業の協働推進	NPO視点によるCSR推進	協働できるNPO・市民づくり	企業からNPOへの流れの創出	提言活動・他団体との連携 ネットワークの強化
1.「パートナーシップ大賞」事業	日本パートナーシップ大賞	3	自	2002～	●	●	●		
2.コラボレーション事業	(1) 第10回 企業&NPO 協働アイデアコンテスト	4	協	2006～	●		●		●
	(2) SAVE JAPANプロジェクト	6	委	2012～			●		●
	(3) 安城市「環境フォーラム」企画運営	7	委	2015			●		●
3.コーディネート事業	(1) NPO 喫茶支援	8	自	1999～		●	●		●
4.コンサルティング事業	(1) 企業のCSR活動支援	9	委	2010～		●		●	
	(2) その他のコンサルティング事業、各種相談等	10	自	1998～	●		●		●
5.教育啓発事業	(1) 安城市「職員向け市民協働研修」及び「協働のまちづくり人材養成講座〈初級編〉」	11	委	2013～			●		●
6.調査研究事業	(1) 共同研究「次世代エネルギーワークショップ」	12	-	2015～					●
7.情報受発信	ホームページ等の運営他、ポスター・チラシ等	12	自	1998～	●	●	●	●	●
8.提言活動・その他の事業	(1) 行政各種委員としての提言活動	14	-	1998～					●
	(2) 各団体等との連携	14	-	1998～					●

## ■ センターの主な事業

### 1. 「パートナーシップ大賞」事業

#### 日本パートナーシップ大賞

前年度は、認定特定非営利活動法人日本 NPO センターとの協働で、新しい仕組みを構築し、全国の NPO 支援センターとの連携を強化しながら第 11 回を開催したが、2015 年度は、次回開催に向けて継続のための仕組みづくりと、更なる普及拡大のための準備期間と位置づけ、継続・発展の道を探った。

目的	・日本パートナーシップ大賞をこれまで以上に全国へ浸透させ、次回開催時の応募を促す ・第 11 回を踏まえ、次回開催に向けての体制づくりを行う
目標	・運営体制の構築・整備 ・全国 NPO 支援センターとの連携強化
成果と課題	第 11 回を共催した認定特定非営利活動法人日本 NPO センターの意向もあり、今年度は体制を再構築することとなった。体制を見直し、株式会社博展、株式会社オルタナとの協働を模索。新たな方向を見出そうとしている。

#### 1) 日本パートナーシップ大賞の今後に関する検討会議

- ・ 8 月 6 日 (木) 13:00~15:30 日本 NPO センター地下会議室  
出席：日本 NPO センター 今田常務理事 (ファシリテーター)、新田事務局長、平川氏  
PSC 岸田、池上、長谷川 (調査員)、水野  
第 1 回から第 11 回パートナーシップ大賞までの成果と課題出しのワークショップを行った。
- ・ 10 月 16 日 (金) 16:00~18:00 PSC 事務所  
出席：日本 NPO センター 新田事務局長、平川氏  
PSC 岸田、池上、水野  
「岸田案」をもとに、各地域支援センターと地元紙を巻き込んだ仕組みについての検討を行った。継続審議中。

#### 2) 「第 11 回日本パートナーシップ大賞」事例集の編集・作成

- ・編集期間:2015 年 7 月~2016 年 1 月
  - ・タイトル:広がる協働 企業&NPO 272 事例のデータ分析  
第 1 部: NPO と企業の協働 「パートナーシップ大賞」10 回を振り返る  
第 2 部: 第 11 回日本パートナーシップ大賞に進んだ 5 事業と現地ヒアリングをした事業を併せ、9 事例を紹介。NPO と企業の質の高い協働のきっかけやそのプロセス、成果などをわかりやすく掲載  
第 3 部: データで見る第 11 回日本パートナーシップ大賞
- ※発行は、「7. 情報受発信事業」に記載。



#### 3) 「第 12 回日本パートナーシップ大賞」に向けて

- ・ 10 月 6 日 (火) 岡山 NPO センター (岡山) 石原達也事務局長と面談 (岸田)
- ・ 10 月 22 日 (木) 共同通信東京支社 (東京) 所澤新一郎論説委員と面談 (岸田)
- ・ 11 月 18 日 (水) 共同通信東京支社 (東京) 所澤新一郎論説委員と面談 (岸田)
- ・ 12 月 18 日 (金) ㈱オルタナ (名古屋) 森撰編集長と面談 (岸田・山崎)
- ・ 1 月 15 日 (金) ㈱博展 (東京) 鈴木紳介取締役・オルタナ森編集長と面談 (岸田・市川理事)
- ・ 2 月 24 日 (水) サステナブル・ブランド国際会議 (東京・博展主催) 参加 (岸田・市川理事・池上・山崎)

## 2. コラボレーション事業

### (1) 第 10 回 企業&NPO 協働アイデアコンテスト

〈(公財)中部圏社会経済研究所との協働事業〉

中部圏社会経済研究所との協働により 2006 年度から開始し、10 回目の実施。NPO による企業との協働アイデアを募集し、最終選考では公開プレゼンテーションを行い、優秀な団体には協働実現に向けたフォローアップをする。NPO から企業への協働事業実施の働きかけの場を設定し、NPO と企業の協働を推進した。

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO と企業の協働を推進するために、NPO から企業に対し協働事業を働きかける場を設ける。</li> <li>・節目の 10 回に当たるため、初期の目的の達成度を検証、2016 年以降の展望について検討する。</li> </ul>
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデア応募数 30 件以上、対象となるすべての県からの応募</li> <li>・最終選考会参加者 120 名以上</li> <li>・協働実現 3 団体以上(過去の受賞団体を含む)</li> </ul>
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントリー数 30 団体・アイデア応募数 30 アイデア(5 団体エントリーのみ)、石川、福井以外の 7 県より応募。</li> <li>・最終選考会参加者 87 名</li> <li>・(N)いしかわ市民ネットワーキングセンターとの連携で、「4 時間で、アイデアをカタチにするセミナー」を開催。本事業の周知をはかることはできた。しかし参加者からの応募はなく、北陸はまだ行政との協働が基本で、まちづくり分野が主である。</li> <li>・プロボノ支援、ハンズオン支援をしているものの今年度は協働実現には至っていない。</li> <li>・最終選考会の参加者は目標には届かなかったが、岐阜、静岡、三重で、企業と NPO の協働推進の声が聞け、各地域において本事業の展開の可能性が広がっている。</li> <li>・本事業は第 10 回で一区切りとなり、次年度からはアイデアづくりから一歩進み、協働事業を支援する事業として生まれ変わる事となった。</li> </ul>

#### 1) 企業との協働事業アイデアを NPO から募集

- ・中部広域 9 県（愛知、岐阜、三重、静岡、長野、石川、福井、富山、滋賀）の NPO を対象。
- エントリー期間：6 月 1 日(月)～7 月 31 日(金) エントリー数 30 件
- アイデア応募：8 月 1 日(土)～9 月 15 日(火) アイデア応募数 30 件(26 団体)

#### 2) 応募に向けたセミナーの開催

- ・「4 時間で、アイデアをカタチにするセミナー」：5 月 9 日(土) 13:00～17:00 金沢学生のまち市民交流館・交流ホール。(N) いしかわ市民ネットワーキングセンター主催 7 名参加
- ・「北陸訪問」：4 月 23 日(木)・24 日(金) 金沢・富山・福井・鯖江の市役所、中間支援センター訪問

#### 3) 一次審査(書類選考)

- ・日時：9 月 30 日(水) 13:00～16:30
- ・会場：中部圏社会経済研究所会議室
- ・書類選考を行い、最終選考会でアイデアをプレゼンテーションする 5 団体を決定
- ・審査担当者：中部社研 藤井良直氏・沢井治氏・深谷宏氏、PSC 岸田真代・水野真由美・山崎恵美子 最終プレゼン事業(団体名)
  - ①持ち家交換型隣家対策付高齢者用マンション(NPO 法人静岡団塊創業塾)
  - ②「広がれ！きらめ樹の輪」(NPO 法人ひと・まち・これから)
  - ③子どもと医療をやさしさでつなぐためのツールの開発(NPO 法人ホスピタルプレイ協会すべての子どもの遊びと支援を考える会)
  - ④学校の樹木からバイオ燃料～バイオマス利活用推進にむけて～(スマイルフォレスト)
  - ⑤ユニバーサルデザインによる岐阜県の観光地づくり(NPO 法人ギフ福祉ネットワーク東部)

#### 4) プレゼン事前指導の実施

- ・最終選考会に向けて、プレゼンの相談受付やアドバイス等を実施(10月～11月)

#### 5) 最終選考会 & 表彰・交流会

- ・日時：11月19日(木)14：30～ 名古屋商工会議所2Fホール
- ・参加者数：87名(プレゼン団体含む)
- ・アイデアプレゼンテーションおよび審査、表彰・交流会

#### ◆審査委員

山口智絵子氏(愛知県民生活部社会活動推進課 主幹)  
 山口香氏(中部電力株式会社経営戦略本部 CSR・業務改革推進グループ長)  
 玉川愛郎氏(株式会社三菱東京UFJ銀行 企画部部長兼秘書室室長)  
 藤井良直氏(公益財団法人中部圏社会経済研究所 代表理事)  
 岸田眞代(特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター 代表理事)

#### ■最終結果

<p>●最優秀賞 (N)ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会(静岡県静岡市)</p>	<p>9歳ごろから心も身体も大人へと移り変わる時期であり、長期に医療とかかわる子どもにとっては、注射針が短いものから長いものへと移行する時期でもある。子どもの不安感や恐怖心を和らげるために、遊びの力を取り入れて、子どもが体の変化や針の変わる理由を理解できるツールを開発する。</p>
<p>子どもと医療をやさしさでつなぐためのツールの開発</p>	
<p>●優秀賞 (N)静岡団塊創業塾(静岡県藤枝市)</p>	<p>高齢者用の集合マンションの設計・管理・運営をNPOと企業が協働で行う。入居者は持ち家を賃貸物件として不動産会社に供託、その売り上げでマンションに入居。隣家との問題回避に取り組んだり、マンション内に、各種店舗や団体事務所、グループホーム等設置し、永続的な高齢者支援を目指す。</p>
<p>持ち家交換型隣家対策付高齢者用マンション</p>	
<p>●特別賞 (N)ギフト福祉ネットワーク東部(岐阜県岐阜市)</p>	<p>岐阜県下の観光地を、高齢者や障がい者も快適な旅行が出来るよう、介助ヘルパーの派遣や宿泊施設・観覧場所の改善などを行う。旅館組合・観光地組合を対象に障がい者との接し方講習会等も開催し、観光地のユニバーサルデザイン化で観光困難者を減らすとともに、観光地の活性化も図る。</p>
<p>ユニバーサルデザインによる岐阜県内の観光地づくり</p>	
<p>●奨励賞 (N)ひと・まち・これから(愛知県名古屋市)</p>	<p>きらめ樹間伐を通して愛知県の中山間地域の課題を顕在化し、積極的な社会貢献活動として、森林、企業、間伐材ユーザーまでを有機的に結ぶ事業。企業に対して事前研修を行い、間伐～製材、間伐材で作られた製品の提供までを行う。森林の課題解決に携わると同時に、次世代に残す環境づくりにつなげる。</p>
<p>広がれ！きらめ樹の輪</p>	
<p>●奨励賞 スマイルフォレスト(愛知県名古屋市)</p>	<p>学校での環境整備で排出された枝葉を廃棄物とせず、企業と協働してバイオマス燃料として活用する。同時に、地域や企業が連携して地球温暖化や森林伐採と植樹、未来エネルギーについての講座などを開催し、児童生徒への生きた環境教育を行うことで未来の自然環境に配慮した人材を育成することを目指す。</p>
<p>学校の樹木からバイオ燃料 ～バイオマス利活用推進にむけて～</p>	

#### ◆ ミニ講演：“最優秀賞受賞その後”

タイトル：「“ママたちの声から生み出す！コンビニ発の子育て支援事業”最優秀賞をいただいて～その後～」

講師：「コンビニ発の子育て支援事業プロジェクト」メンバー

(母力向上委員会代表 塩川祐子氏、同マーケティング部 中村鈴鹿氏、野田佳世子氏、富士宮市役所 企画部 未来企画課 主査 為田麻由子氏、中部プロボノセンター 住友理工株式会社 新事業開発研究所 システム技術研究室 担当課長 来田歩氏)

## 6) フォローアップと協働実現のサポート

①第9回入賞団体の事業アイデアを対象に、プロボノやハンズオン支援の実施。

母力向上委員会：プロボノ支援（中部プロボノセンター）6月～12月

子ども&まちネット：ハンズオン支援（山崎恵美子）5月～継続中

②第10回入賞団体に対するフォローアップ会の実施

第10回入賞団体を対象に協働事業実現を支援するため、各団体からの提案事業の進捗報告の後、協働実現に向けての検討やアドバイスを行う。

・日時：2016年3月7日（月）14時～16時

・場所：中部圏社会経済研究所 会議室

・参加者：大隅裕氏（NPO 法人静岡団塊創業塾）、榎山重美氏（NPO 法人ギフ福祉ネットワーク東部）、佐治真紀氏（NPO 法人ひと・まち・これから）（NPO 法人ホスピタルプレイ協会すべての子どもの遊びと支援を考える会、スマイルフォレストは欠席）

戸成司朗氏（NPO 法人中部プロボノセンター）

中部社研：藤井良直氏・沢井治氏・深谷宏氏、有本誠二氏、PSC：岸田眞代・山崎恵美子・水野真由美

## 7) 初期の目標の達成度の検証、2016年以降開催の検討

①第1回から10回までの分析等による、今後の在り方の検討（第10回報告書）

②2016年度 「中部まちづくりパートナーシップ大賞」実施にむけて

12月9日（水）藤井良直代表・沢井治常務・深谷宏総務部長と面談（岸田・山崎）

1月20日（水）深谷氏と面談（岸田・山崎）

3月7日（月）深谷氏と打ち合わせ（山崎）

### (2)SAVE JAPAN プロジェクト

<（認N）日本NPOセンター、（株）損害保険ジャパン日本興亜損保との協働事業>

「いきものが住みやすい環境づくり」を目指して全国各地で行うプロジェクトの中で、PSCは愛知県での事業を行った。これまで「環境」に関心の少なかったので、地域の生態を学び、将来的な地域の環境保全活動へとつなげることができた。県内の2つの環境団体と協働して市民参加型の環境プログラムを実施した。4年目の事業。

目的	・これまで環境プログラムに参加する機会のなかった市民が、身近な環境について体験を通して学びきっかけをつくる。
目標	・計3回のプログラム参加者：延べ100名以上 ・アンケートでの満足度：70%以上
成果と課題	・プログラムへの参加者：延べ104名 ・アンケートでの満足度：「満足」「やや満足」94%（無回答除く） ・2013年度から継続して同じ2つの環境団体と協働することで、プログラムの内容を充実させ、より円滑に広報活動を進めることができた。必要に応じて、大学や他の団体からの協力を得ることで、専門分野の充実が図れ、参加者の満足度を高めることができた。

2つの環境団体と協働し、初心者でも参加しやすい環境プログラムを実施する（計3回）。

協働団体名：都市の自然のモノサシ研究会、森林インストラクター会“愛”

### 1) 「都市の自然のモノサシ研究会」との協働講座

日時	講座名	場所	参加者数
9月12日（土） 10:00～13:00	都心の生きもの玉手箱！ （協力：名古屋 蝶の飛ぶまちプロジェクト）	名城公園 （名古屋市北区）	38名
11月14日（土） 13:00～16:00	ワイルドな雑木林が高層建築と共存！	名古屋大学キャンパス （名古屋市千種区）	31名

## 2) 「森林インストラクター会“愛”」との協働講座

日時	講座名	場所	参加者数
10月25日(日) 10:00～12:00	地域の自然を知る/フモトミズナラの森を知る	愛・地球博記念公園 (長久手市)	35名

### (3)安城市「環境フォーラム」企画運営

<安城市委託事業>

安城市が今年度行う環境基本計画の改定に際し行うキックオフイベントの企画と運営。環境課題に関して頭で分かっているけれども行動に移せていない人をターゲットに、基調講演とパネルディスカッションを行った。

■テーマ：「未来の夢をかたちに変える～健幸に暮らせる環境まちづくり～ 環境フォーラム 2015」

6月13日(土) 13:25～16:10

会場：安城市文化センター マツバホール

■基調講演 涌井史郎氏 (造園家・大学教授)

■パネルディスカッション

コーディネーター：飯尾歩氏 (中日新聞論説委員)

コメンテーター：涌井史郎氏

パネリスト：金森純一郎氏 (株式会社デンソー)

野村豊美氏 (ABK朝美活代表)

杉山範子氏 (名古屋大学特任准教授)

### (4)その他のコラボレーション事業

#### 1) 「第2次共生ビジョン事業進捗支援」委託事業 (美濃加茂市)

第2次共生ビジョンの初年度にあたり、新事業推進をはかるための支援を行う。事業ごとに課題を明らかにし、解決への糸口を探る。支援プログラムとしては「多様な団体との協働の仕方」をテーマに、参加7市町村の職員、NPOを対象に、講義とワークショップを実施した。

・第1回 7月8日(水)18:00～21:00

みのかも定住自立圏 第2次 共生ビジョン事業進捗支援

多様な主体による“協働の進め方”

その1 多様な主体による協働とは～協働事例を中心に

・第2回 7月29日(水)18:00～21:00

みのかも定住自立圏 第2次 共生ビジョン事業進捗支援

多様な団体との“協働の仕方”

その2 協働における課題 ～協働の進め方を中心に

### 3. コーディネート事業

#### (1)NPO 喫茶支援

社会福祉法人ゆめネットとの協働で、以下の2箇所の喫茶運営を行う。

- 1)三井住友海上火災保険㈱「NPO カフェ・アイリス」及びしらかわホール内「カフェ・バーしらかわ」
  - ・月1回の定例運営会議のほか、継続的な関わりを深め運営支援を行った。
  - ・季節のドリンク・薬膳茶などメニューを工夫し、お客様のニーズに応えながら展開中。
  - ・運営会議：4月16日(木)、5月20日(水)、6月17日(水)、7月15日(水)、8月19日(水)、9月25日(金)、10月22日(木)、11月20日(金)、12月21日(月)、2016年1月21日(木)、2月24日(水)、3月23日(水)
  - ・しらかわバーの運営を、4月より名フィル・セントラルあいち・メディア等の主催事業を中心に、月に3～5公演のみの営業。不定期公演に対応するスタッフの手配が困難になってきたため、9月末をもって完全撤退した。
  
- 2)中産連ビルディング㈱内喫茶スペース「ボタン Café」
  - ・月1回の定例運営会議のほか、継続的な関わりを深め運営支援を行った。
  - ・ランチ営業を中心に、入居企業や会議室利用者及び近隣からの利用者アップをめざす。
  - ・2月上旬～3月中旬の確定申告時期のみモーニング営業を行った。
  - ・運営会議：4月28日(火)、5月27日(水)、6月25日(木)、7月27日(月)、8月26日(水)、9月29日(火)、10月28日(水)、11月30日(月)、12月24日(木)、2016年1月27日(水)、2月25日(木)、3月29日(火)

#### (2)その他のコーディネート事業

PSC 会員である特定非営利活動法人環境改善推進機構（山崎理事長）を介して、九州の企業の中部東海での展開の拠点として、PSC 事務所を提供し、次年度より事務代行などを行うことになった。

## 4. コンサルティング事業

### (1) 企業のCSR活動支援

<自主事業>

#### 1) 新CSR検定（3級）の推進

- ・（公財）日本財団、(株)オルタナが、全国規模（札幌、仙台、東京、名古屋、他 13 箇所）で展開する「新CSR検定3級」において、PSC は名古屋会場を担当。
- ・第2回試験日：2015年10月4日（日）10:00～11:40（70分）  
試験会場：ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）  
受験料：4,000円（20名以上の団体受験は3,500円、中・高・大学生は3,000円）  
受験者数：17名、うち合格者12名
- ・第2回検定開催に合わせた勉強会

回	日時	講師	場所	参加者数
第1回	9月1日（火） 19:00～20:40	津田秀和氏 （愛知学院大学経済学部 教授）	イーブルなごや 第一集会室	1名
第2回	9月15日（火） 19:00～20:40	津田秀和氏 （愛知学院大学経済学部 教授）	イーブルなごや 第一集会室	4名

- ・第3回試験日：2016年2月28日（日）10:00～11:40（70分）  
試験会場：ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）  
受験料：同上  
受験者数：20名（うち学生1名）
- ・第3回検定開催に合わせた勉強会

回	日時	講師	場所	参加者数
第1回	2月16日（火） 19:00～20:40	岸田眞代 （パートナーシップ・サポートセンター 代表理事）	イーブルなごや3階 第7研究室	6名

- ・「第1回CSRリーダー会議」：8月17日（月）19時～21時  
イーブルなごや 第3集会室  
合格者との継続的な繋がりと、合格者同士のゆるやかなネットワークづくり。CSRに関する学習会等を通じた情報共有、名古屋地区でのCSR検定の受験者数アップを目指す。  
参加者：11名（企業6名、NPO1名、行政1名、事務局3名）

#### 2) CSRコンサル事業の新規開拓

- ・中堅企業を主なターゲットとし、愛知の企業を中心に静岡等も含めて新規取引の開拓を目指す。
- ・PSCの強みである、NPO協働とステークホルダー・ダイアログを軸としてメニューを提示する内容のリーフレットを制作した。
- ・CSR検定の案内企業45社をはじめ、NPOと企業の協働セミナーへの参加企業等約100社に説明して配布するなど、広く告知を行った。
- ・11月12日（木）「平成27年度CSR活動促進セミナー」（浜松）NPO支援センター主催、企業向けCSRセミナー。コンサル事業もPRした。
- ・CSRコンサル、目標4社に対してまだ受注には至っていないが、引き続き他の事業と連携しながら広報し、受注に向けて活動中。
- ・来年度は本年度の取り組み状況を見ながら、対応を検討する。

## (2)NPO・企業・行政各種相談等

- ・1月26日(火) (N)一宮ボランティアグループリーダーの会(VGL)  
次年度「市民と企業の協働フェスタ in 一宮」(6/19)での講演依頼。
- ・(N)環境改善推進機構、(株)名管商会他。

## 5. 教育啓発事業

### (1)安城市「協働のまちづくり人(びと)養成講座<初級編>」

<安城市委託事業>

地域の協働推進を担い、地域の中心となって社会課題解決を行うために、協働を推進することができる人材の発掘と育成を目指し、市民協働によるまちづくり人材育成プログラムを実施。2013年度初級編、2014年度中級編を経て、2サイクル目の初級編を行った。

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漠然と市民活動に興味を持っている人や何からはじめていいのか分からない人材を発掘する。</li> <li>・市民活動及び市民協働に関する基礎知識を学び、市民協働の意義・目的に対する気づきを促すための基礎研修を行い、協働のまちづくりを主体的に進めていく市民を養成する。</li> </ul>
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安城市職員 10 名、市民 20 名</li> <li>・協働によるまちづくりに必要な知識や技術、役割を基礎から学ぶ。</li> <li>・5 回の講座を通じて「協働の担い手」の役割や仕事の実感ができるようになる。</li> </ul>
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申込み数 37 名(行政 12 名、市民 25 名、うち市民1名申込み後受講辞退)</li> <li>・まちづくりに関心のある市民と行政職員とが同じグループで学び、話し合う機会を持つことで、まちづくりに市民協働が有効であることを実感し、自らがまちづくりの担い手であるという意欲を醸成することができた。</li> <li>・5 回終了時アンケートより、「協働の理解が深まった」(初回 73%→85%)、「協働の担い手としての自覚が持てるようになった」(初回 70%→80%)</li> <li>・協働に関する理解や関心が深まったことはもとより、特に「広報」という視点からまちの魅力を引き出し、魅力の活かし方を考え、発信していくという作業を繰り返す中で、わがまちをもっと好きになり、より積極的にまちに関わっていく意欲が向上した。</li> <li>・参加市民 24 名の平均年齢は 60.9 歳と高めであり、すでに何らかの市民活動を行なっている市民は 7 名と少なかった。受講者間の経験とスキルのギャップをどう埋めるかが、課題として残った。</li> <li>・今回は「広報」という視点を中心に市民協働による「まちづくり」の学びを深めた。よって、今後さらに多面的な視点からの「まちづくり」の機会と、本講座を一過性のものにしないうための、次の展開を考える必要がある。</li> </ul>

#### 1)「協働のまちづくり人(びと)養成講座<初級編>」

申し込み数:36名(行政12名、市民24名)

回	テーマと講師	会場	参加者数
【第1回】 9月26日(土) 13:30~17:00	まちづくり人(びと)とは?~多様な担い手によるまちづくり~ 岸田真代	安城市民交流センター	30名
【第2回】 10月18日(日) 13:30~17:00	安城の魅力を物語にしてみよう! 河井孝仁氏 (東海大学文学部広報メディア学科教授 博士(情報科学))	安城市民交流センター	28名
【第3回】 11月29日(日) 13:30~17:00	まちの魅力を語る!伝える!! 河井孝仁氏	安城市民交流センター	28名
【第4回】 12月13日(日) 13:00~16:30	まちの人々を巻き込む!動かす!! 河井孝仁氏	安城市民会館	29名
【第5回】 2016年 2月6日(土) 13:30~17:00	協働によるまちづくり~まちの外からの力を活かす~ 河井孝仁氏	安城市民交流センター	20名

・昨年度初級編及び昨年度中級編を修了した受講生に対し、安城市が「協働サポーター」登録を呼びかけ。希望者19名が市に登録。本年度初級編講座聴講と、一部ワークショップに参加。

## (2) 講師派遣等

行政や企業、各団体等からの要請に応じて講師を派遣した。

- ①(株)デンソーユニティサービス…11月5日(木)
- ②滋賀県職員協働研修…7月15日(水)、16日(木)「多様な主体との“協働”」
- ③富山県「協働推進ミーティング会」講演…7月22日(水)(魚津市)、23日(木)(高岡市)  
「NPOと企業の協働を推進するために」
- ④なごや環境大学…10月11日(日)全国都市緑化あいちフェアにて、なごや環境大学10周年事業 環境報告会とワークショップ「なごや環境大学～市民が活躍する場～」講師
- ⑤尾張旭市「市民活動と協働に関する職員研修」…11月11日(水)、11月18日(水)
- ⑥栃木県 企業とNPO等との協働対話フォーラム 基調講演「NPOと企業のパートナーシップ表彰10数年～協働の取り組みから見えてきたこと」…2016年3月4日(金)
- ⑦岐阜県「企業×NPO×行政 交流・研修会」講師…2016年3月22日(火)

## 6. 調査研究事業

### 1) 他団体及び研究者との共同研究

・上智大学との協働事業「次世代エネルギーワークショップ」実行委員

- ① 第1回実行委員会…10月22日(木)  
第2回実行委員会…2016年1月14日(木)  
次世代エネルギーワークショップ…2月18日(木)、19日(金) 上智大学
- ② 古屋での実施に向けて…1月28日(木) なごや環境大学幹事会にて提案  
2月26日(金) 打ち合わせ(名大竹内教授他)  
3月22日(火) 打ち合わせ(上智大柳下教授・南山大前田准教授他)

## 7. 情報受発信事業

### (1) ホームページ等の運営他

- ・ホームページへの情報公開
- ・Facebook ページによる情報発信 538 いいね!(2016年3月28日現在)  
URL: <https://ja-jp.facebook.com/psc.npo/timeline>
- ・PSC レポートに代わる「PSC 通信」の導入 ⇒ ■センターの運営に関する活動

### (2) 「第11回日本パートナーシップ大賞」事例集の発行

「第11回日本パートナーシップ大賞」事例集の執筆・編集  
『広がる協働 企業&NPO 272事例のデータ分析』 2016年2月10日(水) 発行 300冊買い取り  
2016年3月28日現在、70冊(贈呈含む)、日本NPOセンターへ100冊(協働相手)

### (3)ポスター・チラシ等

事業の広報活動に必要なポスター・チラシを発行する。

CSRで業績アップ! ポスター・チラシのデザイン例。左側は「CSRで業績アップ!」というテーマで、右側は「地域のCSR・社会貢献をサポーターします!」というテーマで、それぞれ具体的な活動内容や問い合わせ先が記載されています。

CSR コンサルリーフレット

第10回企業&NPO 協働アイデアコンテスト ポスター。NPOによる「社会課題」を企業とNPOの「協働アイデア」募集という内容が中心です。

第10回企業&NPO 協働アイデアコンテスト  
アイデア募集ポスター&チラシ

第10回企業&NPO 協働アイデアコンテスト 最終選考会 チラシ。2015年11/19(木)14:30～の開催情報が中心です。

第10回企業&NPO 協働アイデアコンテスト  
最終選考会案内チラシ

SAVE JAPAN 環境プログラム 【都市の自然を再発見①】 ポスター。フエトミズナラの森を知るというテーマです。

SAVE JAPAN 環境プログラム  
【都市の自然を再発見①】  
都市に残るマメナシの自生地を歩く

SAVE JAPAN 環境プログラム 【都市の自然を再発見②】 チラシ。ワイルドな雑木林がビルの背後に!というテーマです。

SAVE JAPAN 環境プログラム  
【都市の自然を再発見②】  
歴史を伝える鎮守の社 vs  
都市公園のけなげな自然

SAVE JAPAN 環境プログラム 【都市の自然を再発見③】 ポスター。都市の生きもの玉手箱!というテーマです。

SAVE JAPAN 環境プログラム  
【都市の自然を再発見③】  
都市のまん中で里山体験

## 8. 提言活動・その他の事業

### (1) 行政各種委員としての提言活動

- ①なごや環境大学実行委員・幹事…4月22日(水)幹事会、5月25日(月)総会、8月20日(木)、9月8日(火)、10月20日(火)
- ②名古屋市特別職報酬等審議会…5月25日(月)
- ③淡海ネットワークセンター「おうみ未来塾」…4月4日(土)、6月28日(日)、12月12日(土)、1月9日(土)
- ④美濃加茂市「みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会」委員…6月26日(金)、8月3日(月)、10月1日(木)2月25日(木)
- ⑤名古屋市「東谷山フルーツパーク及び農業文化園のあり方検討会」…4月16日(木)、6月22日(月)、9月2日(水)、10月26日(月)、1月13日(水)
- ⑥名古屋市公園管理運営業務委託者選定委員会…5月22日(金)、7月13日(月)、7月17日(金)現地視察、8月26日(水)、9月7日(月)、11月16日(月)、12月9日(水)
- ⑦東海市まちづくり推進事業審査委員…6月1日(月)、6月20日(土)
- ⑧名古屋市公共事業評価監視委員懇談会…8月7日(金)、9月3日(木)、10月23日(金)、30日(金)
- ⑨名古屋市イーパーツリユース PC 寄贈プログラム意見聴取会…7月28日(火)、10月23日(金)12月19日(土)寄贈式
- ⑩豊明市協働推進委員会…8月5日(水)、9月25日(金)、11月16日(月)、2月15日(月)

### (2) 各団体との連携

- ①日本 NPO センター:CEO 会議  
空き家再生・活用事業 NPO 調査(調査)  
「NPO 法施行記念フォーラム」…12月1日(火)
- ②損保ジャパン環境財団 CSO ラーニング…説明会 4月17日(金)、面接 5月14日(木)、6月～2016年1月末までインターンシップ学生 2名受け入れ
- ③愛知県「市町村 NPO・ボランティア担当者会議」…5月15日(金)
- ④環境改善推進機構…4月23日(木)総会(講演「企業で CSR を推進するために」)  
2016年1月28日(木)賀詞交歓会  
2月26日(金)、3月16日(水)協働の可能性を探る
- ⑤きらきら基金運営委員会(三重県・桑名市)「企業と市民活動の協働事業アイデアコンテスト」…2月20日(土)

## ■ センターの運営に関する活動

### (1) 定時総会

日時:2015年5月23日(土)14:00~16:30 場所:ウィルあいち 2階 会議室7

内容:2014年度事業報告、2014年度決算報告、2015年度事業計画、2015年度予算、  
理事の辞任に伴う新理事の選任について

◆総会時にあわせて、講演会および交流会を実施。

**講演会:「地方創生とシティプロモーション**

**～NPOの役割とともに～**

講師:河井孝仁氏

(パートナーシップ・サポートセンター 理事

東海大学 文学部広報メディア学科 教授)

懇親会:講演会終了後、ウィルあいち近くの会場にて実施



### (2) 理事会

日時	場所	審議内容
【第1回】 5月18日(月)	PSC 事務所	2014年度事業報告(案)、2014年度会計報告(案) 2015年度事業計画(案)
【第2回】 5月23日(土)	ウィルあいち	2014年度事業報告(案)、2014年度会計報告(案) 2015年度事業計画(案)、2015年度活動予算計画 理事の辞任に伴う新理事の選任について
【第3回】 11月13日(金)	PSC 事務所	第1号議案 2015年度事業報告について(中間) 第2号議案 2015年度会計報告について(中間)
【第4回】 1月31日(日)	イーブルなごや	第1号議案 2015年度事業報告について(中間) 第2号議案 2015年度決算報告について(中間)
【第5回】 3月30日(水)	PSC 事務所	第1号議案 2015年度事業報告について(中間) 第2号議案 2015年度決算報告について(中間) 第3号議案 2016年度事業計画(案)について

### (3) シニアボランティア会議

・活動休止中

### (4) 会員向けメールマガジン「PSC通信」による情報配信

4月21日(火)、5月19日(火)、5月21日(木)、5月25日(月)、6月10日(水)、6月11日(木)  
7月10日(金)、7月24日(金)、8月7日(金)、9月3日(木)、10月2日(金)、10月15日(木)  
11月20日(金)、11月26日(木)、12月25日(金)、12月28日(月)、1月20日(水)、2月8日(月)

### (5) 事務局運営

・月1回の事務局会議を定例開催した。

開催日:4月6日(月)、5月11日(月)、6月3日(水)、7月2日(木)、8月4日(火)、9月2日(水)、  
10月7日(水)、11月2日(月)、12月2日(水)、2016年1月5日(火)、2月1日(月)

### (6) 年次報告書発行

2015年-2016年次報告書を発行(5月28日(土)発行予定)

## ■2015年度 役員一覧

(五十音順、敬称略)

### 【理事（10名）】

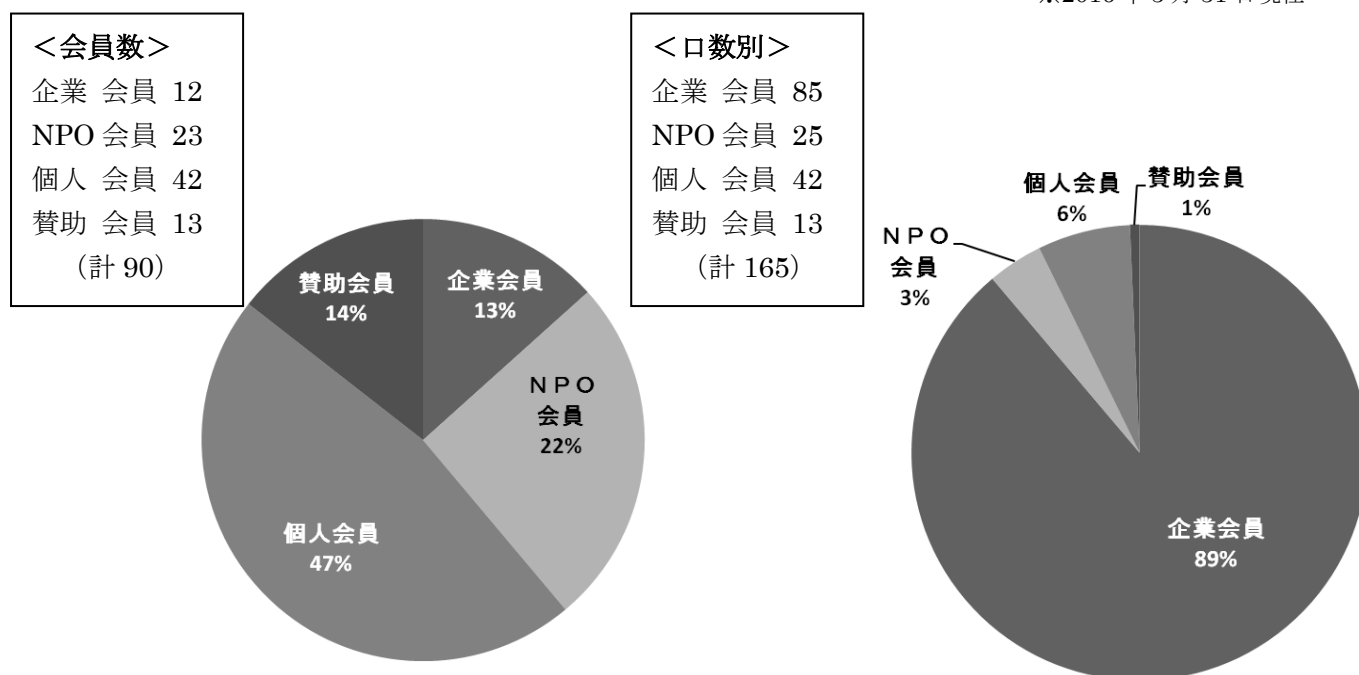
市川 博美	グローバル教育センター 代表
岡部 扶美子	(認N) パンドラの会 代表理事
加藤 歌子	税理士
河井 孝仁	東海大学文学部広報メディア学科 教授
川上 里美	(N)福祉サポートセンターさわやか愛知 理事長
岸田 眞代	(N)パートナーシップ・サポートセンター 代表理事
榊原 勝彦	トヨタ自動車(株) 総合企画部企画室コーポレート・CSRグループ 長
田辺 和弘	三井住友海上火災保険(株) 中部総務部長
藤井 良直	(公財)中部圏社会経済研究所 代表理事
堀越 哲美	愛知産業大学 学長

### 【監事（1名）】

面高 俊文	元 (株)デンソー 総務部長
-------	----------------

## ■2015年度 PSC データ

※2016年3月31日現在



## ■事業報告の参考データ

### 第10回 企業&NPO協働アイデアコンテスト (P4)

<その他の応募アイデア> (入賞5アイデアを除く)

- ・夢かけウォーカー製作委員会 (仮) / 特定非営利活動法人夢かけハンディキャップサポート
- ・寄付型自販機ニッチメディア事業 / 特定非営利活動法人寄付型自販機推進機構
- ・駿府(すんぶ)城(じょう)のお堀を使った「櫓(ろ)舟(ぶね)」運行と周辺事業の展開  
/ 静岡団塊創業塾
- ・お一人様送り人 / 静岡団塊創業塾
- ・安心システムの老人ホーム見学会 / 静岡団塊創業塾
- ・セミナー講師発掘事業 / 静岡団塊創業塾
- ・企業や市民活動団体の社会貢献活動をいっしょに発信して、まちの魅力を立体的に見せていく。  
/ 特定非営利活動法人みえきた市民活動センター
- ・「リアル野球盤」で健康寿命を延ばそう! ① / NPO リアル野球盤協会
- ・「リアル野球盤」で健康寿命を延ばそう! ② / NPO リアル野球盤協会
- ・優輪ステッカー で安全ドライブ事業 / 「ありが TOH」企画。
- ・コミュニティスペース「知るカフェ」をハブとした伊豆半島回遊事業  
/ 特定非営利活動法人伊豆研究会
- ・体感! 体験!! イベントRUSH!!! / 一般社団法人チャレンジ
- ・身体づくりは心づくり “健康エクササイズ” / 風の騎士団
- ・東近江市縁活事業 ~東近江市で協働を生みだす~ / NPO法人まちづくりネット東近江
- ・おもてなし女子部 / ロコ☆ワク
- ・各種問題解決に役立つ新活動モデル事業 / 協働意識改革クラブ
- ・1000人のメッセージによる防災意識向上事業 / 特定非営利活動法人 いみず市民メディア
- ・共助目線で微笑みのアドバイス、地域と企業をつなぐ…街笑み推進プロジェクト /  
せと・しごと塾有志の会 (わく WORK パーク実行委員会)
- ・地域企業と連携した子育てと仕事を両立できる安心安全な街づくり  
/ 特定非営利活動法人どんぐりの会
- ・まちづくり市民活動サポートシステム事業~市民力向上でまちづくり活性化~ / AYUドリーム
- ・育児休業中にスキルアップ&フォローアップ / 特定非営利活動法人 SmileyDream
- ・iPadを使った楽しい認知症予防講座で地域コミュニティー作り  
/ 特定非営利活動法人ライフサポートみわ
- ・社会貢献チャレンジ アートレンタル / SR Plus
- ・コミュニティセンター活性化事業 / Activation

発行日 2014年12月1日 発行人 山内直人 日本NPO学会 〒602-8048 京都府京都市上京区下立売通小川東入る  
中西印刷株式会社内 学会フォーラム TEL:075-415-3661 FAX:075-415-3662  
URL: http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/janpora/ E-mail: janpora@nacocos.com

## 日本NPO学会と「パートナーシップ大賞」

岸田 眞代

特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事



そろそろNPO学会を卒業しようと考えていたら、思いがけず第8期理事に選出されてしまった。お断りすればいいものを、「最後のご奉公？」などちょっと古めかしい言葉が殊勝にも頭をよぎり、何度目かの理事をお引き受けすることになった。学会と私の関係は、中枢でもなく全くの外野というわけでもない、まさに微妙な関係である。が、実は設立前から関わってきた縁でもある。

そんなわけで、今回「巻頭言」の依頼を受け、少しばかり学会との関係を振り返ってみることにした。ちょうど「パートナーシップ大賞」10回から11回へと大きな転換点を迎えた時期と重なったことも大きい。

### 「パートナーシップ大賞」の原点

そこで、保管していたニュースレターや報告論文等を引っ張り出してみると・・・改めていろんなことが蘇ってきた。理学部出身の私が、初めてNPOをテーマに書いた「NPO評価・企業評価・パートナーシップ評価」（タイトル自体がいかに素人っぽい！）の論文を、第3回大会（2001.3）で発表。思いもよらぬ高い評価を受け、参加者アンケートで「最も多くの参加者の印象に残った報告者」として、錚々たるメンバーを差しおいて筆頭に挙げられていたこともわかった。

その理由を、今さらながら自分なりに分析してみると、①当時としては数少ない「NPOと企業の協働」がキーワードであったこと、②「パートナーシップ（協働）評価」の基本コンセプトと指標を明確にしたこと、③2つの協働事例をそれにあてはめて考察し、その評価法の有効性と課題を明らかにしたこと、であろう。さらに、その後日本に招聘したこともある、当時のハーバード大学J・オースチン教授による「NPOと企業の3つのパートナーシップ・タイプ」を念頭に、目指すべき協働のあり方を提起した点も、当時は新鮮だったのかも知れない。

大事なことは、実はこの先である。このNPO学会での発表を機に、仲間とともに協働評価を発展させ、翌2002年、「第1回パートナーシップ大賞」が実現したのである。以来、試行錯誤しながらも、昨年11月無事第10回を終えることができた。日本における「NPOと企業の協働」の優れた事例を掘り起こし、講演や書籍の出版を通じて全国にそのすばらしさを伝えてきたつもりだが、その原点がこのNPO学会での発表だったのである。

### NPO現場への知的刺激

その後も「パートナーシップ・リーダー～協働事業を推進する者に求められる要件・能力についての一考察」〈第4回〉、「NPOと企業のパートナーシップ、その評価への挑戦～「パートナーシップ大賞」経験が示唆するもの」〈第5回〉に続き、7回、8回、10回にも発表し、またいくつかのパネルディスカッションにも参加させていただいた。さらに、初期の軽井沢合宿や各研究会にも参加した。これら一つひとつが、私自身のNPO現場での理論形成や活動に凝縮されていったのは間違いない。

その意味で、私のようなNPO実務者にとって、知的刺激を与え続けてくれるNPO学会の存在は、思った以上に大きいのかも知れない。卒業はもう少し先になりそうである。

### ＜本号目次＞

巻頭言	岸田 眞代	1	NPOの風景 (52)	初谷 勇	14
震災特別フォーラム・国際シンポジウム	L. コンフォート	2-3	『ノンプロフィット・レビュー』投稿論文募集		15
	川脇 康生	4-5	JANPORA 図書館		16-17
	岡田 彩	6-7	日本NPO学会入会のご案内		18
シリーズ 社会起業家 (28)	大西 たまき	8-9	寄付白書 2010の取り扱いについて		
世界の市民社会②ベトナム	長谷川 雅子	10-11		日本NPO学会理事会	19
国際学会報告《ISTR》	佐藤 勝典	12-13	事務局からのお知らせ		20

NPOと企業の協働を推進する中間支援NPO「パートナーシップ・サポートセンター」の代表理事を務める岸田真代さん。新聞記者、再就職情報誌発行、企業や行政など社会人研修の講師、有限会社の設立などを通じて女性が力を発揮できる体制づくりを行ってきた女性だ。名古屋におけるNPOの第一人者である岸田さんに話を聞いた。(取材/平野かおり)



岸田真代さん

NPOと企業の協働を推進する中間支援NPO「パートナーシップ・サポートセンター(PSSC)」の代表理事を務める岸田真代さん。団体設立前から女性が力を発揮できる体制づくりをライフワークとしており、自分の会社や産業能率大学等で女性リーダー研修講師を行う中で、女性が企業内で実力をつけても、その上にいる男性の理解が得られず、活躍できないという話を多く耳にしてきたとい

う。「まさに『ガラスの天井』というべき状況でした。女性たちの実力不足という面もあるかもしれませんが、企業内部の問題の方が大きいのではないかと思います」。解決策を模索する中、岸田さんは第二回名古屋市女性海外派遣団の視察メンバーに選ばれ、一九九〇年に名古屋で初めて米国の五都市を訪れ、女性が活躍する場を視察。さらに九三年、NPO視察団

が渡米するという話を聞き、すぐさま一カ月後の参加を決意。西海岸のNPOを視察し、女性が企業内に留まらず、社会の大きな一部を占めて活躍する姿を目の当たりにしたという。女性海外派遣団、女性リーダー研修講師、NPO視察がつながり、具体的にやるべきことが見えてきたという岸田さん。

「女性が持っている力を発揮できる社会づくりのために何かできるか考えていたときにNPOに出会い、これだと思いました。何とか日本でも取り入れなければならぬと決意しました」

NPOにおける女性の比率は高い。介護や子育てを行っていることから地域の課題に敏感で、解決したいと考えるのは女性が多い一方、企業内の課題を考えるのは男性が圧倒的に多いのが現状だ。

「結婚して会社を辞めたとしても、違う形で働ける、あるいは生き生きと活躍できる場がなくてはならないし、そういう場を作ります。企業にこだわって自由に動けない存在にいるのではなく、

# なでしこ力

## NPOと企業の協働で社会のあり方は変えられる



第10回パートナーシップ大賞授賞式の様子

んでやっている人もいました。そのため、米国NPOのあり方を企業研修で伝えるなど、受講生の目が輝いてくるのです」と岸田さん。市民活動を企業と対立するものではなく、会社や社会を良くするためのものと位置づけ、『企業とNPOの協働』というテーマを全国に先駆けて打ち出した。

九五年、阪神・淡路大震災でボランティアがクライスアップされ、市民活動促進法案が国会に提出されて、九八年には特定非営利活動促進法として成立。

NPOが脚光を浴び始めた。岸田さんはそれに先立ち、九六年には、企業とNPOのパートナーシップツアーを企画し、大手企業に声掛けして米国における協働事例の視察を主催。その内容を社会貢献方針にはぼそのまま取り入れた企業もあったという。

さらなる事業を行っていくため、九八年にはPSSCを設立。

仕組み作りとしてまず行ったのが、NPOと企業の協働事例を全国から集め、モデルとして表彰する「パートナーシップ大賞」だ。これは現在PSSCの中心事業となっており、全国三八都道府県、五〇〇社を超える企業からの応募があるという。続いてNPOがプレゼンを行い、その提案に対して手を挙げる企業を募る「協働アイデアコンテスト」も開始。

「以前は、資金提供や支援は上の立場から行うものという感覚で、NPOとの対等な協働が可能だと認識されていませんでした。現在では対等が当たり前になりつつあります。ただし、まだまだ全ての企業が社会や地域のための事業を展開しているわけではありません」

岸田さんが目指す次なるステップは、中小企業であってもNPOとの協働が当然と捉えられる社会だ。NPOとの協働を考えられる状況をつくっていくこと、マッチングにも力を入れている。

「協働はあらゆる場面で可能です」と岸田さん。「資金や人の提

供が難しい中小企業でも、独自ブランドの共同開発など、本業における製品やサービスを継続・発展させる協働であれば可能はず。また、例えば企業のCSR上の課題に対し、福祉や環境などを得意とするNPOが解決案を提示できるかもしれません」

そういった積み重ねにより、双方から協働を進めていきたいと岸田さん。双方の発掘や結びつけを行うための協働コーディネータの養成も大きな課題となっている。幅広い年代、立場、層を協働というかたちでコーディネートしていく役割は、様々な経験をしてきた岸田さんだからこそ果たして来られたとも言える。

「課題はいっぱい。パートナーシップ大賞事業も今年で二回を迎えましたが、これから先も継続していく力がPSSC自体に足りていません。この先どういう形でNPOと企業を中心とした協働を推進し、地域や社会を良くしていくか。それを私がいなくても継続できる社会の仕組みにしていきたいと思っています」





## PSC 年次報告書 2015-2016

編集・発行

**特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター (PSC)**

(2016年5月28日発行)

〒464-0067 名古屋市千種区池下 1-11-21 サンコート池下 2 階

TEL : 052-762-0401 FAX : 052-762-0407

E-Mail : [info@psc.or.jp](mailto:info@psc.or.jp) URL : <http://www.psc.or.jp>